

薬害 私たちで最後に

「やっと頂上に登ることができた」。薬害C型肝炎訴訟で原告側と国が和解に向けた集合意書に調印した十五日、九州など各地から上京した原告・弁護団約百十人は福田康夫首相と面会、初めて握手交わした。初提訴から五年余、首相は薬根絶を誓い、原告らは笑顔を見せた。「救



薬害C型肝炎訴訟の山崎智子代表(右から3人目)と面会、薬根絶を誓った福田首相(右から2人目)。その「誓」を原告らは注視している。15日午後5時、首相官邸

いちくんで

薬害肝炎・和解合意

(1)

「やっと、意におたちは大臣が孤軍奮闘し、金と政治と力の問題にいていて」。十てきたことを知って、集めた。「内閣」五日後五時、首相。その声をかけた薬を宣言する舛添の言葉、意地下の大ホール。福 薬害訴訟全国原告団に「重く重い原動力、訴訟の意味をわかな本物。誓は本に根田康夫首相は大事して話、表の山口美智子さん(五)と喜び、後に「裏切」だった(山口さん)原絶へ向かっか。

誓いの握手 苦闘5年、やいよ

めかけた原告らの席に「福岡市」は「やっと心られた」と涙を流した。告たち、決意の見通し「政治の力」を思い知れし、その切り出した。から喜んで握手できま 原告団は、あんなにないのに、自分らが救ったから、山口さん「皆さまに大変感謝を」と柔らかな表情を見せた。『いま、暗いまま。した。肝臓患者の救をあえ使う。』としておびを申しあげ、そして、くき刺さって、会っていただけません、済に結び付いたという「国民目録」で正義ますで開き、さらに「反」とも忘れない。「誓はか。山口さんは都に、あ志の高さに励まれたが実現できるかどうか、省を繰り返した。「薬私たちが最後にしてほしい新聞社の本社を訪れ、と弁護団の一人は言う。政治は試されている。私害の再発は何としても防がないといけない。誓い。たテレビ局関係者に三りではない。被告を立証。政治に期待し、翻書、ユース番組に出して、たできず救済されない患者、血縁者以外の原因りになった薬害行政の欠しい。最後に原告一人、れる日々だった。弁護士仲介があったで感、肝がんを重、重とは何か。約三百五十一人と握手した。山口さんらが初めて言、弁護士仲介があったで感、肝がんを重、重とは何か。約三百五十これに先立つ厚生労働、邸に解決を申し入れたの、わけてではない。「弁護士い症状に苦しむ人も多万人の肝臓患者の救済は省議での基本合意書、は昨年三月末、政府高官、先生たちは伴者、私だ。い。これで書きにしている闘い振り返りながら、深々と頭を下げた。「私たが、水田の関心は年、当事者が動かなければ何はならない。患者の残され課題を考える。

以後の原告団活動

- 薬害C型肝炎事件の検証および再発防止の
為の委員会
- 恒久対策(大臣面談)
- 肝炎対策基本法の成立